【市長あいさつ（要旨）】

昨年は市制65周年という節目の年で、小牧市まちづくり推進計画も策定し、大変重要な年と位置づけていた。本来であれば様々な記念事業を実施するところだったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、多くの事業施策が中止、見直しを迫られた。まずは市民の安全を第一に、新型コロナウイルス感染症への対応をしっかりとしていくという姿勢で臨んだ。

特に、いち早く特別定額給付金を給付するなど、職員総出で対応した。国や県の施策はもとより、市の独自の対策や支援策なども迅速に実施をしてきた。その後、感染症対策の緊急対応が一段落した後、感染症対策と社会経済活動をいかに両立していくのかという大きなテーマの下でプレミアム商品券、応援食事券などの経済対策、ウィズコロナの長期化に対応した小中学校のＩＣＴ教育環境の整備、インターネットを活用した会議やイベントなどの実施についても、積極的に取組んできた。

また、小牧市まちづくり推進計画では３つの都市ヴィジョンを掲げているが、こども夢・チャレンジNo.1都市の実現に向けたこども未来館の整備、健康・支え合い循環都市の実現に向け、市民活動、ボランティア活動や生涯学習の拠点となるワクティブこまきの整備なども進めてきた。

このほか、こまき巡回バスの再編が昨年末に完了した。新たなコース、ダイヤに移行し、19コースから23コースとなった。

各種施策を通じて、市民福祉の増進に向けて着実に市政を進めてきたが、今後、市民が安心して生活できるよう、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、様々な課題に対し迅速かつ柔軟に対応していきたい。

明けて本年は、引き続き新型コロナウイルス感染症の第３波が収まっていない状況を見据えつつ、市政を進めていかなければならない。市民の安全を第一に考えた上で、必要な事業はしっかりと進めていかなければならず、その両立をいかに図っていくのかということが大きな課題である。

ワクチンの開発も世界的に進んでおり期待しているが、まだ少なくとも半年、数カ月、あるいは１年とかかる中で余談を許さない状況が続いていく。

そうした中で、多世代交流プラザ、こまきこども未来館につきいては、９月にオープンする予定が12月になり、第３波の中でオープンを延期したが、何とかオープンしなければならない。ただし、現在は１月23日という

予定でオープン日を設定しているが、状況を見て判断をしなければいけない。世代を越えて、こどもを中心に市民がつながる施設であり、いい形でオープンできればと思っている。

次に、いよいよ３月に小牧市の中央図書館がオープンする。市の顔である小牧駅前の機能の充実とあわせ、このこまきこども未来館、そして中央図書館の３本柱で小牧駅周辺の事業を進めてきたが、ひとつの大きな区切りになる。現在、中央図書館はオープンに向けて順調に準備を進めている。あわせて、東部振興構想の策定など市全体の魅力・活力創造都市の実現に向け、今年はさらに力強く推進していきたい。

コロナの影響で観光事業などは非常に厳しい状況ではありますが、いずれこのコロナの状況も改善されるということは間違いないということであり、それに向けて、今はしっかりと耐えながら、コロナ後に向けての準備を進めていくときである。

コロナ対応とコロナ後を見据えた小牧の次の飛躍に向けた事業をしっかりと進めていくということだが、財政状況は非常に厳しさを増している。コロナの影響で市税の大幅な減収も見込まれる中、必要な事業は進めていかなければならない。来年度の予算編成は非常に厳しい取捨選択をしながら、不急なものは事業を少し遅らせるなど、これまでの事業の計画を若干見直し財源をしっかり確保して、必要な事業に財源を充てていきたい。

また、これまで準備してきた財政調整基金なども活用しながら、この機会に、既成概念にとらわれずに改革をするということもさらに進めていきたい。

デジタル化ということについては追い風だった。この機会に小中学校のＩＣＴ環境の整備をかなり前倒しした。行政もネット社会、デジタル社会にしっかりと対応していかなければならない。行政改革を一層推進する機会にし、経費削減と市民サービスの向上を図っていきたい。

最後に、今後、新型コロナウイルスワクチンが実用化されるということになると思うが、市としてもワクチンが実用化された際には早急に市民に接種できる体制を整えてほしいという国からの要請もあり、これまで検討を進めてきた。国は現在、２月下旬に医療関係者、そして３月下旬に高齢者や疾患等で重篤化の可能性の高い方から接種を始めることを想定しているという。そうした状況で迅速かつ適切に市民へのワクチン接種が開始できる体制を構築するため、健康生きがい支え合い推進部の中に新型コロナ

ウイルスワクチン接種推進室を新設する。皆さんにご協力いただき、新型コロナウイルスに打ち勝って、この新しい年のうちにはコロナ後の明るい展望が開ける、そんな世の中になることを期待している。それに向けて、市も全力で市民の皆さんとともに進めてまいりたい。

指針としては、引き続き３つの都市ヴィジョンをまちづくりの基軸として掲げながら、活力ある高齢社会（小牧モデル）の創造と若年世代、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めていきたい。

【説明要旨】

《令和３年１月行政組織改正について》

国は本年前半までに、すべての国民に提供できる分の新型コロナウイルスワクチンの数量を確保するということを目指している。今後、このワクチンが実用化された際、迅速かつ適切に市民へ接種を開始できる体制を構築するため、健康生きがい支え合い推進部に新型コロナウイルスワクチン接種推進室を設置する。

現在、県内の自治体では、名古屋市がこのワクチンにかかる調整担当を置いているということだが、同様の組織を設置した例はないと聞いている。

組織の設置日は１月18日、今回の改正における組織の増減は１課増１係増で、全部で14部68課３市民センター（支所）153係となる。

《小牧駅西駅前広場の整備について》

名鉄小牧線の小牧駅には、東と西にそれぞれ駅前広場がある。駅の東側については、現在、愛知県が行っている桃花台線のインフラ撤去工事完了後、時期としては３年から４年後ということになるが、駅前広場などを再整備する予定であり、既存のバスターミナルに加えて、現在駅の西側にあるタクシー待機場を駅東側へ移設する計画である。

そして、現在、市が工事を行っている駅の西側については、新図書館がオープンする本年３月27日までに、タクシー待機場を駅東側へ移設するまでの暫定形として供用を開始する予定である。

駅の送迎の際に利用できる一般車乗降場所を拡充するともに、広場南側に駐車スペースを28台程度設け、広場の西側の公衆トイレを東側に建て替える。また、地下にある市営小牧駅地下駐車場と地上を結ぶエレベーターを整備し、バリアフリー化を図る。

なお、駐車スペースとする広場南側については、周辺の駐車場の利用状

況等を踏まえ、将来的にはグリーンインフラとして多くの人々が集い、滞在し、交流することができるような芝生広場を整備する予定である。

《自動応答システム「こまき山コンシェルジュサービス」のリニューアルについて》

自動応答システム「こまき山コンシェルジュサービス」は、市民からの問合せに対し、市の公式ＬＩＮＥから24時間365日、いつでもどこからでも気軽に会話形式で利用できるという取組で、本市では県内各市に先駆けて令和元年11月から試行的に実施してきた。昨年の12月末現在までに延べ約３万7,000人、１日平均にしますと90人弱が利用しており、気軽に利用できるということで好評をいただいている。

このたび、より便利に分かりやすくするために画面展開を一部変更するとともに、検索対象を増やすなどのリニューアルを今日付で行った。

変更点の１点目として、今まで字数の制限により一部選択肢の説明が途切れていた点を改善し、選択肢全文が表示できるように副画面表示とした。

また２点目は、従来は選択肢の表示が３つまでだったが、最高で10個程度まで具体的なカテゴリーが表示されるようになった。

３点目としては、対応項目の拡充である。従来は住民票、戸籍、印鑑登録、マイナンバー、コンビニ、ごみについてだけだったものが、例えば公共施設・行政サービスとしてこまき巡回バス（こまくる）や市営駐車場、ウォーキングアプリａｌｋｏなどについても回答できるよう拡充した。

４点目としては、従来はＬＩＮＥからしか利用できなかったものを市のホームページからも利用できるようにし、より手軽に利用いただけるように媒体の拡充をした。また、ホームページのトップ画面で、こまき山のマスコットキャラクターが常に画面の右下にあらわれるように設定し、すぐに利用していただけるよう機能充実も行った。

今後も様々な問合せに対し、開庁日、開庁時間だけでなく、お待たせすることなく、いつでもどこからでも答えられるシステムになるよう、充実を図ってまいりたい。